

目 的：みんなでつくる中心市街地にぎわい創出拠点検討委員会委員及び市職員が、先進事例の視察により、新しい図書館や複合施設のイメージを共有することを目的として実施

視察日程：令和7年8月5日（火）13時～15時

視 察 先：長野県塩尻市市民交流センターえんぱーく

参 加 者：みんなでつくる検討委員会委員 18名

市職員・コンサルタント職員 15名

内 容：①施設概要説明

②施設内見学・説明

③質疑応答

委員長総括：①複合施設の各機能が単なる機能の集合ではなく、異なる機能を掛け合わせることで相乗効果を生み出し、機能の「集合」ではなく「融合」によって、足し算ではなく掛け算の効果が発揮されている。

②施設が完成して終わりではなく、運営を通じて工夫をされているところがよい。



図1 えんぱーく外観

1. 施設概要説明 13:00～14:00

（説明者：矢澤センター長）



図2 施設概要説明（4階会議室）



図3 施設概要説明(2)（4階会議室）

○主な内容

【塩尻市の概要】

- 塩尻市は古くから交通の要衝として発展し、現在も松本空港への至近性を有するなど交通利便性に優れている
- 平成17年に檜川村と合併し、奈良井宿をはじめとする重要伝統的建造物群保存地区を抱え、歴史的景観の保存・活用を進めている
- ワイナリーが多数立地し、ブドウ栽培やワイン産業が地域経済・観光の柱となっている

- 出版文化との関わりも深く、筑摩書房創設者・古田晃 氏の出身地であるほか、同社から寄贈された約2万点の資料を市立図書館が所蔵している

【市民交流センターえんぱーく】

◎ 建設の経緯と施設概要

- 図書館のあり方検討（平成 15 年度）から計画が始まり、市民参加を重視して建設
- 公募型プロポーザルにより設計、特徴的な「97 枚の壁柱」を採用
- 総事業費 51.6 億円、地下 1 階・地上 5 階、免震構造を持つ市内唯一の公共施設。
- 施設名「えんぱーく」は全国公募で決定（細胞分裂をイメージ）

◎ 運営・利用形態の特徴

- 図書館以外は飲食自由、イベントホールではアルコール利用も可能
- 平日 22 時まで開館し、多様な市民のライフスタイルに対応
- 各種行政証明（住民票・戸籍・税証明など）を発行可能、利便性が高い

◎ 市民参加型の取り組み

- 公設市民営を目指し、「えんぱーくらぶ」を立ち上げ、将来的に市民運営を想定
- ボランティアによる壁柱装飾、図書装備、映画鑑賞会など多様な活動
- 子どもが仮想自治体を運営する「こどもしおじり」を毎年開催（通貨発行・納税・起業体験等）
- ボランティア活動（装飾、映画会、図書装備など）が盛ん
- 市民活動助成制度「まちづくりチャレンジ」により、最大 40 万円規模のステップ支援を実施

【塩尻市立図書館】

- 昭和 46 年（1971 年）に開館、平成 22 年に「えんぱーく」内に移転新設
- 蔵書収容能力 49.5 万冊、定期的な除籍により新鮮度を維持
- 職員 36 名（正規職員 6 名、会計年度任用職員等 30 名）
- 市民一人当たりの貸出冊数は約 9 冊と高い利用率
- レファレンス・サービスが高評価を得て「地方創生レファレンス大賞」を受賞
- 高く設置した書架には全集などを配置、表紙見せ陳列や混排で新たな本との出会いを意識
- 新刊・流行本については複本を置かず、市内書店との役割分担を重視
- 美術館がないため、図書館で原画展などの文化展示を実施

2. 施設内見学・説明 14:00～14:55

(案内・説明者：上條部長、矢澤センター長、副センター長)



図4 閉架書庫（地下1階）

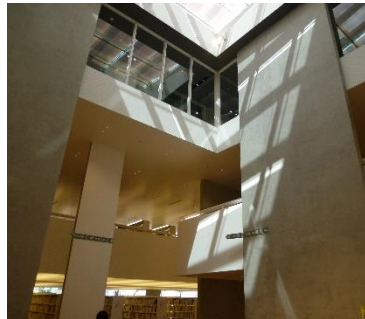


図5 吹き抜け（1階）



図6 開架一般書（1階）



図7 開架全集（2階）



図8 図書館（2階）



図9 多目的ホール（3階）

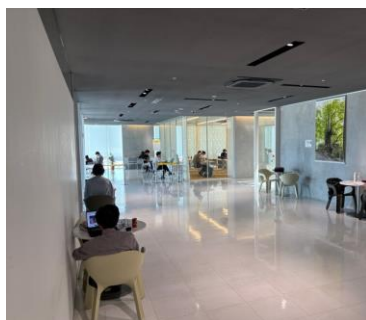


図10 市民サロン（3階）



図11 壁面活用（3階）



図12 イベントホール（5階）

3. 質疑応答 14:55～15:10